

【南区】商店街活性化イベントの事例について

<p>事業名 (イベント名)</p>	<p>シロネコ 白根子行進曲復活プロジェクト シロネコ 白根子行進曲</p>
<p>事業者</p>	<p>白根子行進曲を通じて100年後の白根を考える実行委員会 (白根商工会白根支部、地元商店街有志、地域おこし協力隊、事業に賛同する有志等 約30名で組織)</p>
<p>実施背景</p>	<p>平成30年に商店街企画の写真展に出展された約90年前の「白猫の仮装」をした1枚の写真が話題となった。町の3割が焼失した白根大火の復興を祝い、国や地域の祝い事の際に猫の面と衣装を身に着け商店街を練り歩いたとされるこの「白根子行進曲」のお祭りを復活させたいと、地元の声が高まり、令和元年に白根商工会を中心とした有志の地元住民、地域おこし協力隊などで実行委員会を組織し、令和元年10月22日にイベントを実施するに至った。</p>
<p>概要・内容</p>	<p>「白根子行進曲」は、令和元年10月22日、白根商店街を多数の白根子(猫)の仮装をした参加者が練り歩き、太鼓の演奏や露店の出店などで賑わいをみせ、区内外から多数の集客があった。また、実行委員会では、イベントを成功させるために様々な取り組みを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商店街と地元の高校生が連携し、新商品(5品)の開発・販促に取り組んだ。また、高校生が空き店舗の錆びたシャッター等の塗装をし、まちなみの雰囲気良くなるよう、整備をおこなった。 ・事前ワークショップを開催し、猫のお面作りやイベントのイメージづくりをすることで、イベントに参加し易い環境を創出し、参加者の増加を図った。 ・地元企業等から協賛をいただいた賞品で仮装コンテストを実施し、経費の節減に努め、また、参加者の増加を図り賑わいも創出した。 ・地元新聞社や雑誌編集社、テレビ局などに情報発信をし、広域からの参加者・集客に努めた。
<p>成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・即位礼正殿の儀と期日が重なったこともあり、全国ネットの情報番組に取り上げられるなど、予想以上に各種メディアに取り上げられた。これらの中で、高いパブリシティ効果が得られ、今後の白根地域への集客にも期待できる。 ・商店関係者だけでなく、高校生や有志の地元住民など多様な人々が協働で取り組むことで、地域資源の発見や活性化につなげることができた。 ・当日の仮装行列参加者 106人、集客 約1,000人
<p>今後の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・単なるイベントとしてではなく、地域住民やより多くの商店・企業と連携し、継続的に地域のお祭りとして実施ができる体制づくりや、商店街への売り上げ増加につながる仕組みが課題となっている。

